

## 防・耐火技術の向上を図る

4月以降に防火認定品発売

YKK AP

YKK AP (東京都、堀秀充社長) は1日に発表した12年度の計画(3日付既報)のなかで、窓の防・耐火性能について、さらなる技術向上を図る方針を示した。この土台として今年1月には、防火試験炉を増設し、4月以降の防火製品発売に向け、取り組んでいるという。

同社は昨年2月9日、販売していたアルミ樹脂複合の引き窓のうち、住宅防火製品について、防火の大臣認定基準を満たしていないとの指摘を国土交通

省から受けた。現在は、防火用のシャッターを取り付けるなどの対応がとられているが、意匠面などから防火製品を求めるビルダは多い。

指摘を受けた防火製品は、カーテンウォール・防火開口部協会が申請し、防火設備として大臣認定が下りた仕様に沿って、各社が製造販売してきた。このような、団体が認可を受けた仕様に基づく認定は、通則認定と呼ばれる。通則認定により防火製品を販売していた大手メーカーは、昨年、一様に基準を満たして

いないと指摘された。その結果、現在各メーカーは、個々の製品ごとに、それぞれ企業単位で申請して認定を受ける個別認定の対応を進めている。

個別認定を受けるためには、自社で防火試験を行った後、公的機関で試験を受け、その結果を元に申請を出す。YKK APは、自社の試験所内に従来から防耐火試験炉を1台備えていた。しかし、試験数が多く1台では防火製品の発売が遅くなるため、今後の技術開発における必要性も考慮し、もう1台設置された。